

## C-29 人体の上腕下垂形態と袖付傾斜角度の研究

相模女子大 ○田中百子 近藤れん子

目的 婦人服における袖付傾斜角度は個人を対象として製作する場合には各人の肩部形態に合わせながら最も適当と見られる位置を求めることは容易であるが企業ミステーションの中で腕なし人台を使用して袖付傾斜角度を求める場合のために、人体の上腕下垂角度を測定し、そこに人間の日常作業の機能度と美的感覚を合わせた最適な袖付傾斜角度を判定することを目的とした。

方法 研究資料としては女子大生(10才~19才)160名のシルエツター写真を撮影しその右側側面の後腋窩点を起点とした水平線をひき上腕中の中心点を求めるその位置より下方10cmのところに平行線をひきその中心点と上腕中の中心点を結ぶ線と鉛直線との角度を測定しその中より10名を撰択して着装実験を行った。

結果 上腕下垂形態は前方7度5名、6度6名、5度9名、4度19名、3度25名、25度3名、2度21名、15度3名、1度12名、0度2名、後方05度6名、1度11名、15度3名、2度11名、3度12名、35度1名、4度3名、5度7名、6度1名となる。以上の実験により人体の静止状態における袖付位置を判定する場合には各々下垂形態の角度に合わせてセツトすれば それぞれ美的なハンクを得られるのは当然であるが人間生活の日常作業の機能度を条件として美的な袖付を求める場合には、やはり5度前後の前方傾斜を必要とする結論を得た。